

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

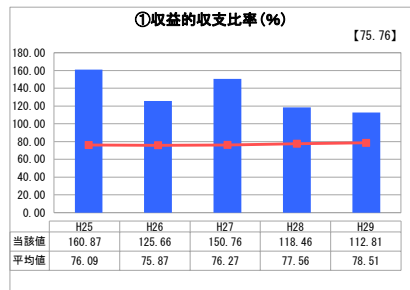
岐阜県 垂井町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	該当数値なし	14.60	1,720	

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
27,703	57.09	485.25
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
4,034	6.89	585.49

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



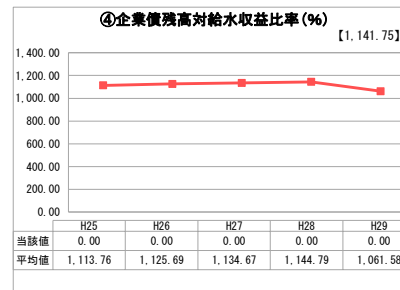
「単年度の収支」



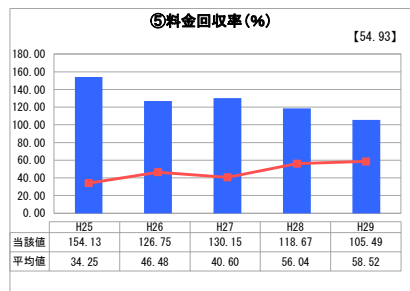
「累積欠損」



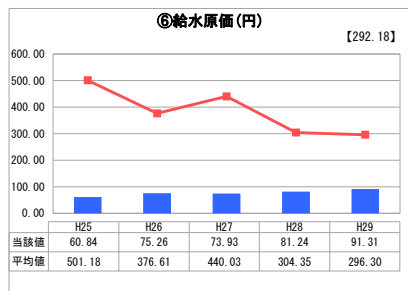
「支払能力」



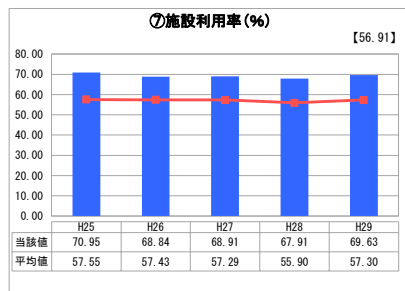
「債務残高」



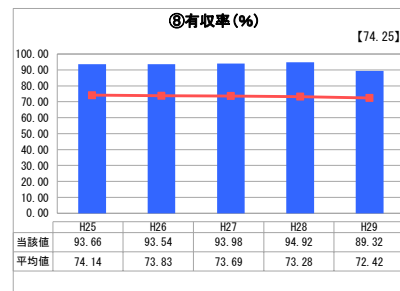
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

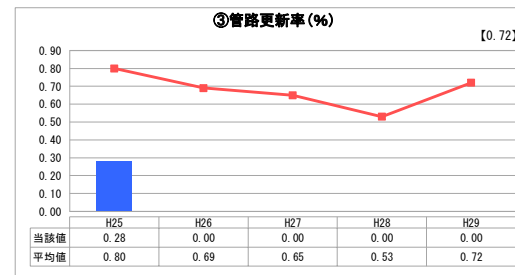
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

・経営の健全性について  
 経常収支比率は、平成29年度の数値が100%を超えており、収支が黒字であるといえます。  
 料金回収率も100%を上回っており、給水に係る費用が水道料金によって賄えていることとなります。しかし、料金回収率は年々減少傾向にあります。これは、人口減少や利用者の節水意識等により有収水量が減少し、給水原価が上がっていることが考えられます。  
 今後も人口減少等により有収水量の減少が見込まれます。さらに、老朽化施設等の更新・修繕費用の増加も考えられます。  
 平成30年度には料金改定を行いましたので、料金収入の増加が見込まれますが、今後増加する更新・修繕費用に備え、費用の削減に努めていく必要があります。  
 ・経営の効率性について  
 施設利用率と有収率は、類似団体の数値と比較しても良好な状態といえます。  
 平成29年度の有収率が平成28年度に比べて減少しましたが、これは漏水による無効水量の増加が原因と考えられます。  
 今後増加する老朽管に備えて、漏水調査等の実施により有収率の向上に努めます。

### 2. 老朽化の状況について

現在、法定耐用年数を超えた管路はありませんので、管路更新率は0%となっています。  
 管路は昭和57年から平成4年にかけて整備していますので、平成36年以降から法定耐用年数を超える管路が増加すると見込まれます。  
 管路更新の財源として、平成30年度より料金改定を行いました。今後は、施設の老朽化と併せて、計画的に更新を行っていきます。

### 全体総括

現在は、水道料金によって給水に係る費用を賄えており、収支は黒字になっています。  
 しかし、人口減少や利用者の節水意識等により有収水量が減少傾向にあります。  
 また、施設・管路等の老朽化により修繕費等が増加すると考えられます。  
 現在のままでは、今後の管路更新に対応しきれない状態にあるため、平成30年度より水道料金の改定を行いました。  
 今後も費用削減に取り組んでいくとともに、計画的に管路更新等を行い、経営の健全性を保てるように努めていきます。  
 また、経営状況を正確に把握するために地方公営企業法の適用も視野にいれていきます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。